六月例会御案内

時代を刷新する会

（平成二十六年・通算第三三四回）

http://www.jidaisassin.jp

○御案内

六月十日（火）正午～午後二時半

議題　ウクライナ情勢と日露関係！

講師　名越健郎先生（拓殖大学・海外事情研究所・教授、ロシア問題専門家）

衆議院第一議員会館　地下一階・第二会議室

いま、欧州は緊迫した事態になっております。本年二月に、ロシア南部のソチで冬季オリンピックが無事終了し、平和ムードに浸っていた矢先、二月末に、ロシアは、隣国ウクライナの南部クリミヤ半島を、移民したロシア人が多いことを理由に強引に併合。さらに、ロシアに接するウクライナ東部のロシア系武装集団が、市庁などの公共施設を占拠したため、ＥＵ諸国、そしてアメリカも大反発し、ロシアに対する経済制裁を発動・加重しました。そして、ウクライナの大統領選挙で、欧米派の元外相ポロシェンコ氏が当選するも、東部の親露派がそれを認めないと宣言したこともあって、新ウクライナ政権は、東部の親露派を武力攻撃し、現在、戦争状態に突入し、こうして突如、欧米とロシアが、真っ向から対立した事態となりました。

オリンピックの平和ムードを契機として、北方領土返還交渉に入ろうとしていた日本政府は困惑しています。そこで、ロシア問題専門家・名越健郎先生に御解説・対策をうかがいます。

（清原記）

◎当日会費　四千円（昼食・講師料ほか）六月六日（金）までに出欠の御連絡賜りたく）

当日連絡先　０８０―８８３６―６２０３・重田

０８０―９２９２―２６２０・高津

□御報告

去る五月十四日の月例会は、三年前のあの東日本大震災における大地震・大津波・原発事故にあたり、時の菅直人首相は、逐次、自衛隊に出動命令を発し、合計十万人を超える自衛隊員が被災地救済に出動しました。その際、自衛隊の総指揮をとったのが、君塚栄治東北方面総監（平成二十三年八月五日以降、陸上幕僚長）でした。警察や消防も大変でしたが、自衛隊員の御苦労は大変なものがありましたが、しかし、その実情は、明らかにはされませんでした。

その君塚栄治様が退官され、民間会社の顧問を務められていることを知り、動員された当時の自衛隊員の御苦労と、その総指揮官としての御努力を語っていただくことにしました。

その御講話の内容は、多岐にわたり、筆舌に尽くせないものがありましたが、その一つ二つを記すと、大震災に伴う大津波の浸水面積は五〇〇㎢で、東京二十三区の面積に匹敵する広大な地域であり、自衛隊も十万人という大部隊なので、陸自を中心に海自も空自も加わった統合任務部隊を初めて編制し、単一の司令部の指揮下に置く編制をとった。被災死者のうち九〇％以上が津波によるものなので、まず、生存者の確保、次いで御遺体の捜索に当たった。ただ、当時は降雪があり、まず雪を除去し、瓦礫を取り除くという大変な作業であった。特に、日本南部から動員された部隊は、車両も夏タイヤなので走行できず、防寒服も十分なく、寒さに凍える状態だったが、隊員はよく頑張ってくれた。自衛隊の任務としては生存者捜索であるが、御遺体が多く警察も手が廻らないので、御遺体の搬送や一時収容も指示し、その場合は、極力丁重に故人の尊厳を守り、御遺体を収容所に運ぶ際は、お一人につき隊員十人を配した。また自衛隊員たちに、「先憂後楽」つまり、まず被災者を先にせよと指示し、被災者に温食を提供し、隊員たちは冷えた缶詰を食べ、風呂にも入らず、地面に寝た等々、涙の滲むお話でした。

（清原記）

▽当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正十郎元財務大臣は、九十歳を機に辞任。現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任しており、理事長は、平成十四年四年から半田晴久が就任しております。

毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、環境技術委員会、新エネルギー委員会等の委員会があり、安全保障部会、医療福祉部会など八つの部会と、要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▽事務局電話（０３）３２７２―４３２０　専務理事兼事務局長・清原淳平、総務　重田、高津

◎同封のハガキまたはＦＡＸにて、六月六日（金）までに、着信をお願い申し上げます。

▼事務局ＦＡＸ（０３）３５０７―８５８７

貴方様のＦＡＸ番号

御芳名

六月十日（火）正午～午後二時半　出・欠

衆議院第一議員会館地下一階第二会議室